

## トガリフタモンアシナガバチ

澄川森林の駐車場広場の草むらに植えた膝丈ぐらいのイタヤカエデの若木にアシナガバチが巣を作っていました。こころ優しいわが会員たちは、巣の周りにピンクのテープをめぐるして、うっかり近づいてハチたちを怒らせて刺されないようにとの配慮もありますが、ハチそのものの保護も企図したものであります。右の写真の撮影は2016年8月18日9時58分でした。撮影するためにデジカメを近づけますと、気配を感じたハチたちが警戒しはじめましたので、いたずらに事を荒立てないように引き下がることにしました。



さて、アシナガバチの仲間であることは巣の形とハチの姿からわかっていましたが、昆虫少年の



記憶に残るアシナガバチとはすこし違うので、精査しましてトガリフタモンアシナガバチと判定いたしました。右上の写真ではよくわかりませんが、左の写真のように腰に黄色い二つの紋があるのが特徴です。

日本には3属11種のアシナガバチの仲間が生息するとのことですが、図鑑「札幌の昆虫」にはコアシナガバチとこのトガリフタモンアシナガバチの2種類しか記載されていません。

体長14～19mm、分布は北海道(除く渡島半島)と秋田県とかなり狭いのであります。

わが追憶のアシナガバチは、家や物置小屋の軒下などに巣をつくるので、除去を命じられて竹竿で巣をつついて落下させようとしていましたら、竿伝いに降りてきた勇敢な守備ハチに顔を刺されたことがありました。スズメバチ科に属しますので好戦的なのであります。

このトガリフタモンアシナガバチは人家の近くには巣を作らない律義者なのでした。もっばら森林近くの野原、まさに澄川駐車場広場のような草むらの中の低木の枝などが営巣場所選ばれるようであります。

この日、菊水いちい幼稚園の園児たちのカミネッコンによる植樹会もB-7区で行われました。これらチビッ子たちとの幾つかの付き合いが定例化しつつあることは、なまら嬉しい限りであります。

